

ぼくのふるさと 門川町

五十鈴小学校 五年 中満 逞植

みなさんは門川町のよいところはどんなところだと思いますか。ぼくは小さい頃から、自然豊かな環境でたくさん遊び、門川のおいしい魚や野菜を食べて、そして秋には帰省してきた親せきと一緒に尾末神社のだんじり祭りを楽しんできました。

ぼくはそれは当たり前のように思っていたけれど、学校で門川町のいろいろな特色を学んで、ぼくはとても恵まれた環境で生まれ育っているのだと分かりました。

ぼくが門川町の良いと思うところの一つは伝統と文化です。

社会の教科書にのっていた写真に興味をもってぼくは今、門川神楽を習っています。最初は、おもしろそうという軽い気持ちで習い始めましたが、だんじり祭りの前夜と庵川神社で神楽を奉納すると聞いてがんばって覚えました。

尾末神社は、祭りの前の夜だったので、暗くて見に来ている人も大人ばかりで少なく、その中で神楽をまいました。次の日のにぎやかさはうそのような、おごそかな空気でした。

庵川神社の祭りは、勤労感謝の日の午前中であって、大人も子どももたくさんいてかえって緊張しました。でも、神楽に出てくる「三番こう神」という神様が持つ「こう神ぼう」を取ろうと、ぼくと同じ小学生が神社の中にまで体を乗り出してきていて、同じ町内の神楽なのに全く雰囲気違っていてもしろいと思いました。一つ一つ違った特色があることが門川町の祭りの魅力だと思えます。

もう一つ、ぼくが体験した伝統芸能は臼太鼓踊りです。五十鈴小学校では、毎年五年生が運動会で披露していて、ぼくも今年初めて

踊りました。

臼太鼓踊りは、豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に戦勝祈願でまわせたのが起源で、昭和五十九年に町の無形民俗文化財に指定されています。門川神社の秋の例祭で奉納されています。

五十鈴小学校でも、毎年運動会で五年生が踊り、三十年以上続いている伝統となっています。二学期になると、毎年六年生が五年生に臼太鼓踊りを伝承します。ぼくたち五年生も今年六年生に教えてもらいました。来年はぼくたちが六年生になり五年生に教えませう。五十鈴小学校に伝わる大事な伝統芸能の一つとしてしっかりと伝えていきたいです。

さらにもう一つ、ぼくが良いと思ったことは、環境です。

三年生のときにカンムリウミスズメのことについて調べ学習をしました。その時に、枇杷島にゴミが落ちていてそれをえものとするカラスがカンムリウミスズメをこうげきするということが分かりました。生物のせつめつ理由で、三番目に多かったのが、人間の環境破壊です。また、落ちていたつりばりをまちがって食べてしまったということもあります。こういったことを防ぐため、ごみを捨てないというステッカーの配布や、びろう島のごみを拾う活動が門川町で行われています。

このことは、どの生物にも共通しています。自分が出したごみは、自分で持つて帰ることやポイ捨てをしないという当たり前のことを門川町の人みんなが守ると、門川町はさらに活気があふれ、自然がいっぱいの豊かな町になります。

門川町の美しい自然や伝統、文化を守るためには、一人ひとりの門川町への思いが大切です。

例えば、ぼくは門川神楽や臼太鼓踊りなどの伝統芸能をここに住むぼくたちが一度でも体験し、学ぶことで伝統は続いていくと

思います。そして、そういったことを続けていくことで、門川町はもっと輝くと思います。

ぼくのふるさと門川町のためにできることを、これからもどんどん自分が体験して伝えていきたいと思います。
